

# 「家庭を良く治める。」

## I 章 1~11 節 モテ

夫婦が人前でも言い争つたり、不満や文句を言つて「いぬ」と見る機会が多くあります。クリスチヤンでも、そういうことは見受けられ、文句をいう側は、自分の不満に周囲の人も同情してくれると思い込んでいます。不満や苦情を言う人を快く思わないのは常識ですが、自分が持つ積み重ねた伴侣に対する不満を理解してもらおうと、更にその理由を弁解します。伴侣の方も、相手に言い返すか、諦めて沈黙や無視をして、相手にしないと更に怒りを招くことになります。

結婚は、「あなたは神の教えに従つて、夫（妻）としての分を果たし、常に妻（夫）を愛し、敬い、慰め、助けて変わることなく、その健康の時も、病の時も、富める時も、貧しき時も、いのちの日の限りあなたの妻（夫）に対して堅く節操を守ることを約束しますか。」と誓わなければ、司式者は結婚式を執り行いません。

誓いや約束を軽視する人は信用されません。自らの価値も低く置いているのではないかと思われます。独身の時の在り方、生活方法を変えないでいることは、伴侣に対して不遜であり、結婚生活がうまくいくはずはありません。私は、日本の習慣や考え方は聖書とは違つていると何度もお話ししていますが、実は、定着した考え方こそが、人生を左右し、信仰生活を不安定にしてしまうのです。その人の生まれも育ちも、聖書の教えに従つて生きるには、邪魔です。それなのに、変えようとしないで自分を主張する、つまり罪の生活を助長するのです。

「分を果たす」とは、自分の務めや役割、義務をやり遂げるゝことです。男の務めとして、稼いで経済的に家を支えると考える人が多くおりますが、それでは妻が働いたら、どうなのでしょうか。夫の役割は、「家庭をよく治め、十分な威厳をもつて子どもを従わせている人」(4)です。妻や家族を守り、助ける夫でなければ、結婚した意味がありません。妻や子供の話をよく聞き、助けない夫がどうして敬られることがありますか。社会的にも責任を果たし、マナーをよく理解して守る習慣を身に着けていなければなりません。子供に教え、社会的に対応できるように育てるのは父親の役割です。妻に自分と同じ考え方を押し付けたり、服従を強いることはしてはいけません。家事も何も、自分の勤めを確認しながら、果たし、そして妻子を愛し、慈しんでいくことが必要です。

ただ、子供を産むこと、母乳を与えること、そして、忍耐深く愛情深い子育ては、男性にはできません。また、妻の愛情と寛容、優しさが夫には必要です。女性には、体力的、情緒的に不向きなことがあります。が、それを夫が理解し助けないと、妻にはストレスになります。夫婦は伴侣（連れだって共に生きる）であり、「男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。その時、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかつた。」（創世記2・25）。夫婦の間では、隠し事や見栄を張るゝと、弱点や欠点も気にしないで素のままに受け容れあうことが大事です。自分の家柄や能力・地位を誇り、伴侣を見下すなどあつてはなりません。

夫婦は伴侣（連れだって共に生きる）であり、「男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。その時、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかつた。」（創世記2・25）。夫婦の間では、隠し事や見栄を張るゝと、弱点や欠点も気にしないで素のままに受け容れあうことが大事です。自分の家柄や能力・地位を誇り、伴侣を見下すなどあつてはなりません。

「復活の時には人はめどる」とも嫁ぐ」ともなく、天の御使いたちのようです。」（マタイ22・30）。つまり、男女の違いや夫婦の軋轢は、この世における神の試金石なのです。違いがあり、意思疎通がうまくいかない他人同士が、夫婦となって共に生き、愛し合うことが、人に与えられた課題なのです。そして、それには時間と経験と多くの失敗が掛かります。それで先週お話ししたように、独身ならば、そういう軋轢なしに、自らを「聖なるもの」（Iコリント7・34）なんとすることができるといつておられるのです。

子育ては、「家庭を治める」ための訓練期間です。3歳くらいから始めるなければなりません。そして、両親の関係と生き方が、そのサンプルとなります。手を抜いたり、夫婦仲が悪かつたりすると、その不正の代価は高いものとなり、勞は多くなります。料理や家事をさぼると不健康になり、十分な働きもできなくなります。子供をしつかりと育てるという」とは、自らの規律にもなります。

夫婦であろうと独身であろうと、自分の家庭を形成し治めるという努力は種まきのようです。その努力は必ず自ら刈り取ることになります。「わざかだけ蒔く者はわざかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は豊かに刈り入れます。」（IIコリント9・6）。親が家庭造りに一生懸命に日々努力した姿と軀は、子どもの生活にも反映して、その人生を形成していきます。「その人は流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結びその葉は枯れずそのなすことはすべて榮える。」（詩篇1・3）

## 1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

## 2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

## 3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

## 4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチヤンは成長し、祝福される。

## 5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えるながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

# 今週の聖書

I テモテ 3:1 次のことばは真実です。「もしだれかが監督の職に就きたいと思うなら、それは立派な働きを求めることがある。」

3:2 ですから監督は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし、教える能力があり、

3:3 酒飲みでなく、乱暴でなく、柔軟で、争わず、金銭に無欲で、

3:4 自分の家庭をよく治め、十分な威儀をもって子どもを従わせている人でなければなりません。

3:5 自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会を世話することができるでしょうか。

3:6 また、信者になったばかりの人であってはいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないようになります。

3:7 また、教会の外の人々にも評判の良い人でなければなりません。嘲られて、悪魔の罠に陥らないようになります。

3:8 同じように執事たちも、品位があり、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利を求めず、

3:9 きよい良心をもって、信仰の奥義を保っている人でなければなりません。

3:10 この人たちも、まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がなければ、執事として仕えさせなさい。

3:11 この奉仕に就く女の人も同じように、品位があり、人を中傷する者でなく、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。

3:12 執事は一人の妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。

1Ti3:1 This is a faithful saying: If a man desires the position of a bishop, he desires a good work.

3:2 A bishop then must be blameless, the husband of one wife, temperate, sober-minded, of good behavior, hospitable, able to teach;

3:3 not given to wine, not violent, not greedy for money, but gentle, not quarrelsome, not covetous;

3:4 one who rules his own house well, having his children in submission with all reverence

3:5 (for if a man does not know how to rule his own house, how will he take care of the church of God?);

3:6 not a novice, lest being puffed up with pride he fall into the same condemnation as the devil.

3:7 Moreover he must have a good testimony among those who are outside, lest he fall into reproach and the snare of the devil.

3:8 Likewise deacons must be reverent, not double-tongued, not given to much wine, not greedy for money,

3:9 holding the mystery of the faith with a pure conscience.

3:10 But let these also first be tested; then let them serve as deacons, being found blameless.

3:11 Likewise their wives must be reverent, not slanderers, temperate, faithful in all things.

3:12 Let deacons be the husbands of one wife, ruling their children and their own houses well.